○担 任 者　　小 川 一 仁

○テ ー マ　実験と質問紙調査を用いた政策分析
—「わかっちゃいるけどやめられない」をまじめに考えよう—

○指導概要　　平成 23 年度の専門演習では，経済主体(組織と個人)が教科書的な経済学が想定するほど合理的ではないことを基礎にした政策分析の可能性について学習します。たとえば、高齢化社会の進展と共に医療費の増大が現実のものとなっています。医療費増大は若年期や中年期に健康について気をつけていればある程度防ぐことができます。しかし、人間は、悲しいかな、【悪いとわかっていてもついついやってしまう】存在です(喫煙やダイエットを思い出してみてください)。組織も同じです。かつては合理的だったけれど、今となっては非合理な慣行が残っています。本演習では経済主体が抱えるこのような問題について学習します。

本演習ではテキストとして、セイラーとサンスティーンが著した下記書籍を輪読します。基本的な経済学の学習も平行して行う予定です．特に統計データの取り扱いについて学習する予定です。夏休み前に、暫定的に卒業論文のテーマを決定してもらいます。3 年次後期にはそれに従い、様々な文献を読み込んだり、実験やアンケートの手法といった調査技術を勉強します。4 年次では，卒業レポートの作成を中心に進めていきます。

3 年次の夏休みには他大学との合同ゼミ合宿を行う場合もありますので、その場合はそちらのための勉強も別途行います。

○応募者への課題　1 か 2 のどちらかを選択してください.

1. 大竹文雄編,『こんなに使える経済学—肥満から出世まで』，筑摩書房を読み、そのうちあなたの印象に残った 1 章の内容を要約して提出してください。
2. 古川 雅一，『わかっちゃいるけど、痩せられない—メタボの行動経済学 』(生活人新書)，日本放送出版協会を読み，あなたの印象に残った 1 章の内容を要約して提出してください。

○教 科 書　　リチャード・セイラー, キャス・サンスティーン, 遠藤 真美 (訳)『実践 行動経済学 健康、富、幸福への聡明な選択』，日経 BP 社，2009

○参考文献　　授業中に指示します.

○応募者への要望　社会常識の遵守(時間を守る、欠席の連絡、報告を逃げない･･･)をお願いします。